

第10回 天理駅周辺地区街づくり協議会

日時：平成28年1月20日（水）午後2時～

場所：天理市役所 4F 特別会議室

次第

1. 開会
 2. あいさつ
 3. 議事
 - (1) 東ゾーンでのプロジェクト
 - ・産業振興館（テレワークセンター）
 - ・天理大学と民間が連携した店舗の紹介
 - ・スイーツプロジェクト
 - (2) 駅前広場のプロジェクト
 - ・駅前広場と新ナビ天理の管理
 - ・PR イベントと賑わいづくり作業部会組織の今後のあり方
 - ・広場の名前
 - ・コインパーキングの運営
 - (3) 広場整備
 - (4) 新ナビ天理
 - (5) 西ゾーンでの基本構想策定の進め方
 4. 次回の日程
 5. 閉会
-

【添付資料】

- P1 天理市天理駅周辺地区まちづくり基本構想(案)
- P2-6 産業振興館
- P7 天理大学サテライトカフェ キャラメルマーケット
- P8 本通り商店街スイーツプロジェクト
- P9 天理駅前広場管理手法のあり方
- P10-11 作業部会で検討中の賑わいづくり
- P12 天理駅前広場作品名
- P13 平面コインパーキングの運用開始について
- P14 全体スケジュール（H28.1.20 修正版）
- P15-18 広場パース
- P19-23 遊具・健康遊具
- P24-25 工事中の動線・南トイレ平面図
- P26-32 ナビ天理 検討中のレイアウトパターンとパース
- P33 西ゾーンでの整備方針づくりの進め方(案)

【参考資料】

総合戦略概要版、ディスカバージャパン抜粋

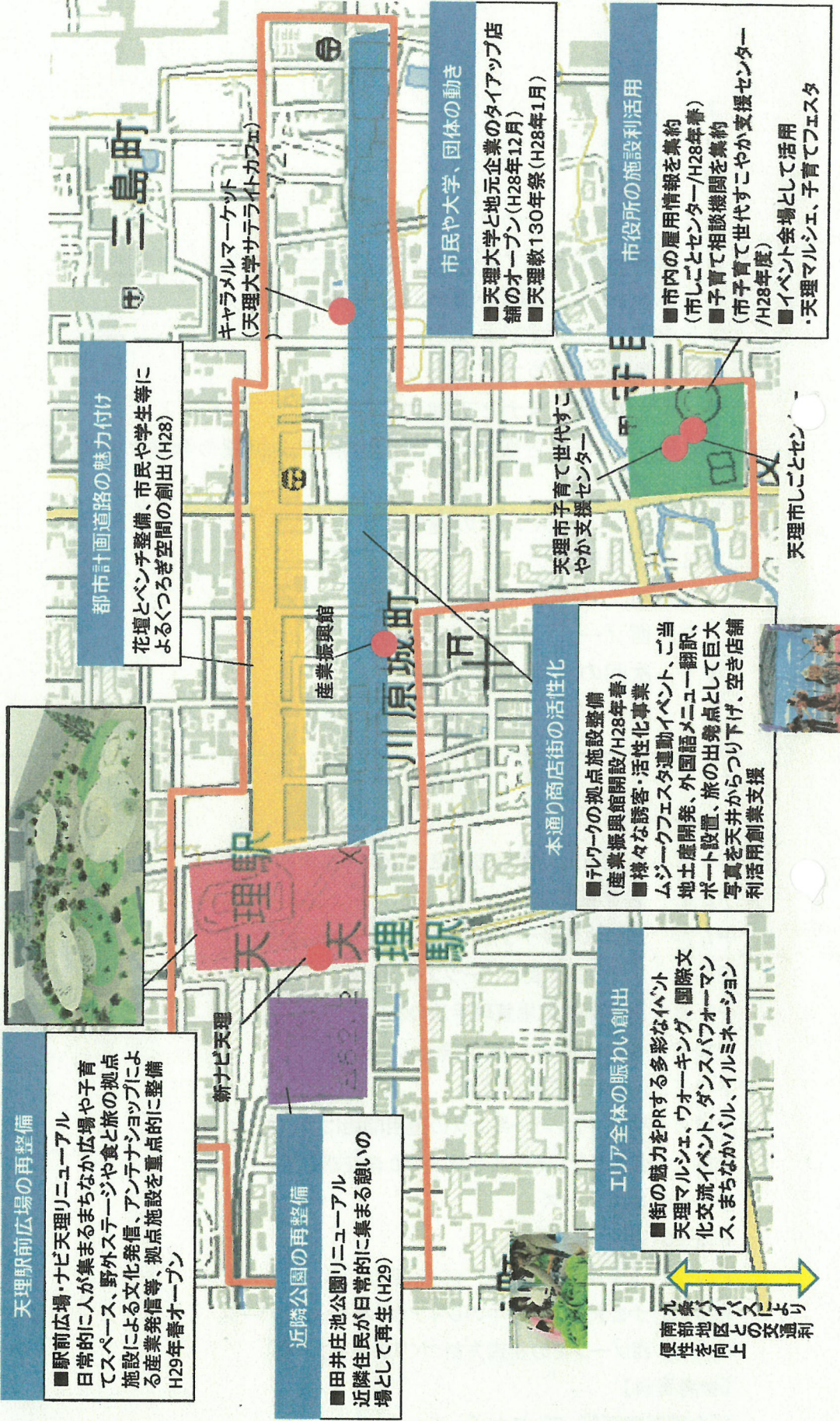
天理市天理駅周辺地区まちづくり基本構想（案）

～天理駅周辺の活力とにぎわいの創出のため、魅力ある公共空間の整備と活用を図る～

現状課題 鉄道駅を中心に形成された宗教文化都市の中心地。平成26年度より街づくり協議会を設立し、各ゾーンにおいて協働によるプロジェクトを推進中。鉄道乗降者数の減少や空き店舗の増加等の数値変化に運動して日常的な賑わいが低下してきているなかで、交通結節点としての機能を維持しつつ、日常的な賑わいを生み出し地区のエリア価値を上げることはもとより、市の玄関口として、市全体、奈良県内の経済循環の原動力となるため、中心地機能の強化を進める。

基本目標
 ○にぎわいのある駅前空間の創出 ○産業振興へのつながり創出
 ○魅力ある文化発信拠点の創出

取組方針
 ○にぎわい創出・・・広場・公園整備 ○産業振興・・・テナショップ整備、マルシェ、テラーク、空き店舗対策 ○文化発信・・・野外ステージ整備、食と旅の拠点施設整備



丸太バスにより
 南部地区との交通利
 便性を向上

交流サロン・ワーキングスペース利用イメージと施設の位置づけ

交流サロンスペース

■くつろぎの場

- 地域コミュニケーションの場所
- 新たなコミュニケーションを生む交流の場所
- 様々なワークショップをおこなう場所
- 年齢や業種を超えた会話を作る場所
- 仕事から解放される瞬間を作る憩いの場所



■ギャラリー

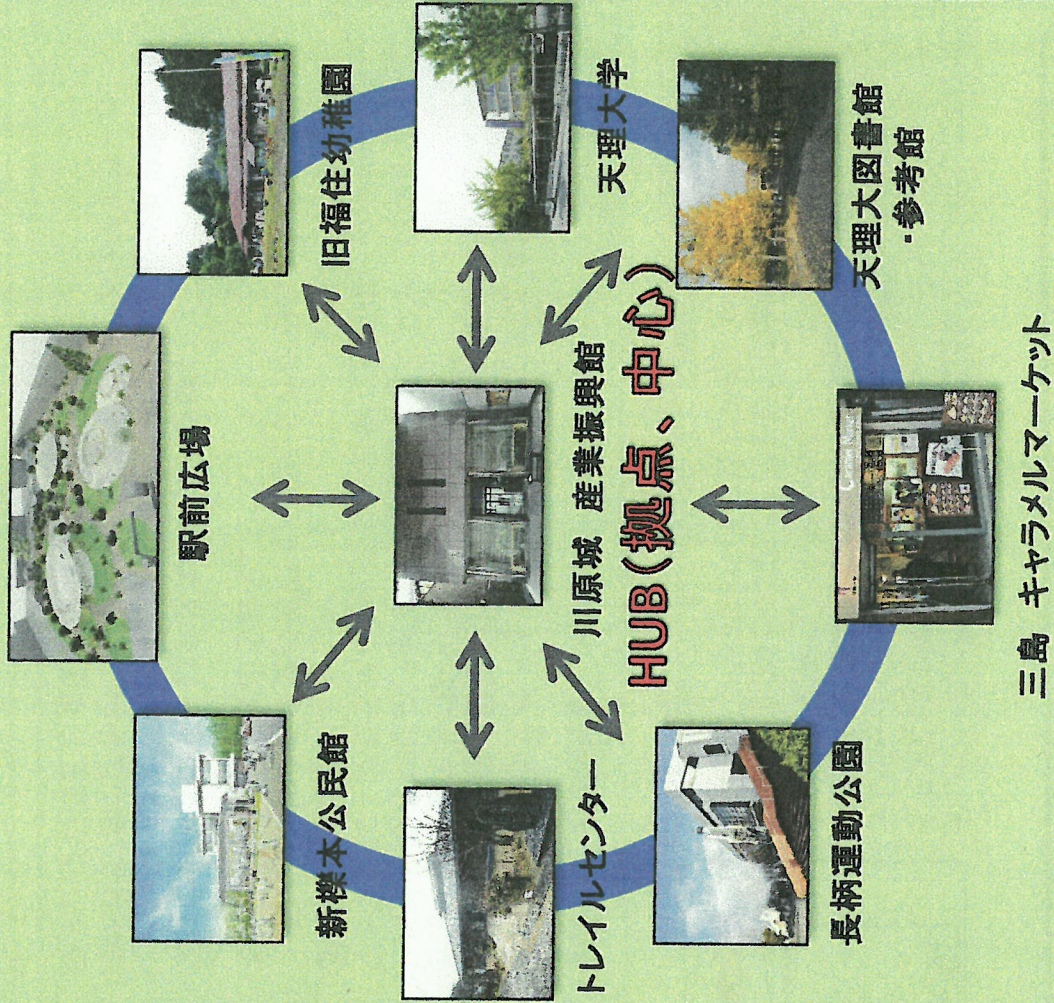
- 情報のインプットとアウトプットされる場所
- 地元の情報が集約される場所
- 市民活動・天理大学生の情報交換の場所
- 天理駅前・トレイルセンター等と連携した情報発信の場所



ワーキング・打合せスペース

■ミーティング

- アクティブなコミュニケーションの場所
- アイデアを生み出すブレーストセッションとしての場所
- チームが生まれるテーブルトークセッションの場所
- 各種セミナーをおこなう場所



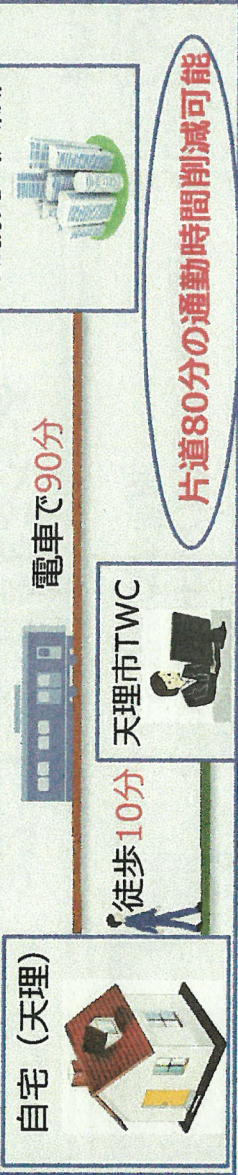
地域のHUB(拠点、中心)として
にぎわいを繋げる施設

天理市産業振興館（本通り商店街内 カワキタ眼鏡時計店跡）

商店街内の空き店舗を活用し、場所にとらわれない柔軟な働き方ができる“テレワーク”と、地域の交流の場である“交流サロン”を併設した、市内にぎわいを循環させる地元産業界と連携した拠点施設です。

【テレワーク実施イメージ】

例えば：天理市に自宅があり、大阪に勤務先がある方の場合



テレワークとは、ICT（情報通信技術）を活用した場所にとらわれない働き方です。

テレワークによって次のようなことが期待されます。

- ①通勤時間削減により、肉体的負担と環境負荷の軽減
- ②仕事の生産性・効率性の向上
- ③育児・介護との両立による就労の確保
(ワークライフバランスの向上)
- ④女性・障がい者・高齢者などの雇用機会拡大

■ 1 階の機能

1. 交流サロンスペース
気軽に来訪できる空間を演出し、商工関係者、地域住民、地域で活動されている方や学生といった様々な人が交流できる空間を提供する。
 - > にぎわい創出、交流の拠点
 - > 情報交換の場
2. 商工関係情報、文化事業情報の発信
商工業情報の収集を行い、来訪者へ情報を提供するとともに、天理図書館や天理参考館での特別展などの文化情報の発信を行う。
 - > 周辺店舗情報等の発信
 - > ギャラリースペース
3. 産業振興課執務室
商店街内の空き店舗を活用することにより、商店街のにぎわいを市内各所につなげるとともに、地元商工事業者と連携し、商業イベントを実施するなど、商工振興対策を行う。

■ 2 階、3 階の機能

1. テレワークスペース【2階：2室(E・F)、3階：4室(A～D)】
ICT（情報通信技術）を活用した場所にとらわれない柔軟な働き方ができるテレワークスペースを設置。
新しい勤務形態の「働く場」を整備することで、雇用を掘り起こすとともに、現役世代の市外転出を抑制し現役世代を市内に留める取り組みを進める。
また、これまでの勤務形態では働くことが困難であった層（子育て女性等）の雇用創出を図る。
2. コワーキング・打合せスペース【2階】
テレワークスペース利用者はもちろんのこと、各種市民団体、天理駅前広場にぎわいづくり作業部会等のミーティングやワークショップの場としての利用促進を図る。

■ 利用可能時間（開館時間）：平日8:30～19:00、土日祝日8:30～17:00

- ・ テレワーク…【平日】9:00～19:00
- ・ サロン…【平日】8:30～19:00 【土・日・祝日】8:30～17:00



① 店舗南側より玄関方向



② 店舗玄関より南方向



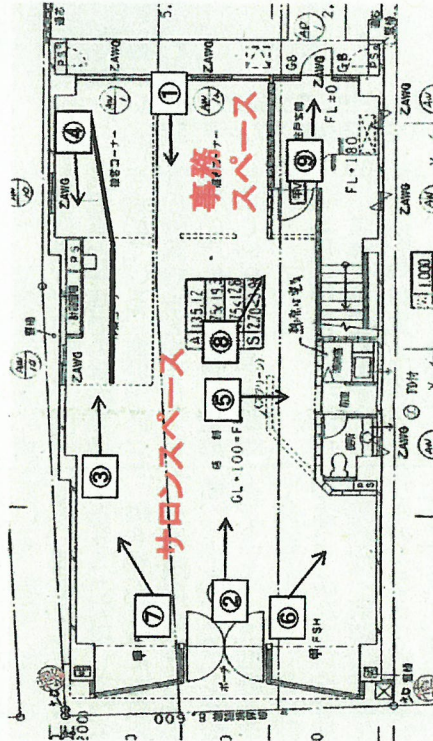
③ 東側改竃によるバックヤード北から



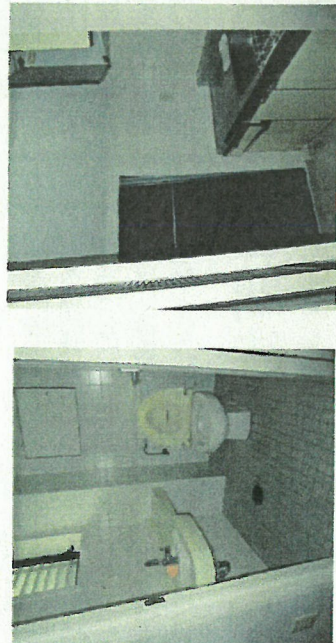
④ バックヤード北部分水回り



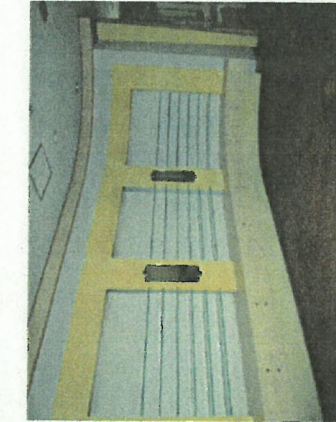
⑤ 店舗西側ショーケース(奥:トイレ・流し台)



旧カワキタ眼鏡時計店 1階 現況



トイレ 流し台



⑦ 店舗東側ショーケース



⑧ 店舗側から住宅玄関方向

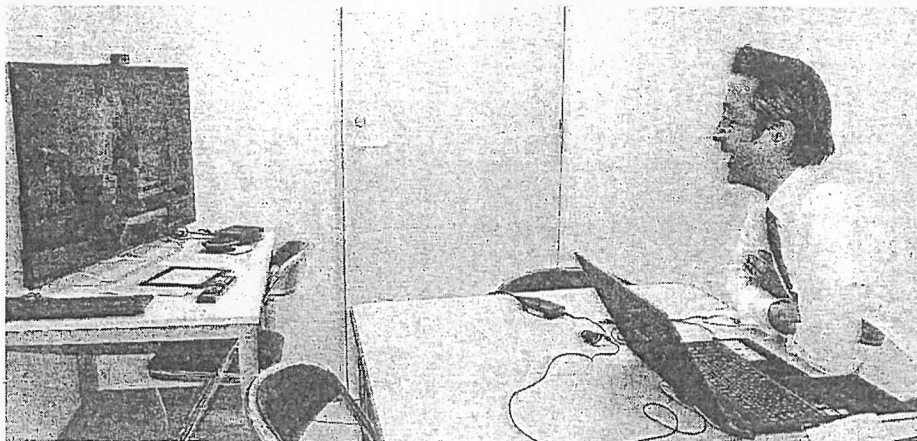


⑨ 住宅玄関



⑥ 店舗西側ショーケース

柔軟な働き方創出「テレワーク」



テレビ会議システムを使って大阪の支社にいる社員とやり取りをする塩沢さん＝天理市

天理市、国交省と共同実証実験

情報通信技術（ICT）を活用し、時間や場所にとらわれない働き方「テレワーク」。柔軟な働き方の創出を目指す天理市は、国土交通省と共同での実証実験を進めている。育児中の女性の就業機会を増やし、若年層の市外転出を食い止める新しい試みとして効果が期待されている。

「本日は午後から天理市内の営業先を回ります。そちら問題はありませんか」。モニター画面越しに大阪府東大阪市の支社にいる社員とやり取りするのは、洋紙の卸売り事業を展開する「シオザワ」（本社・東京都）関西支社の営業課長、塩沢有紀さん（43）。天理駅前建つ市のボラン

ティアセンターの1室で、9月から国交省が始めた実証実験に月1回程度参加している。現在、塩沢さんを含め、同市から市外へ勤務する6人が利用している。約6畳の室内には机とテレビ会議用のモニター画面、ノートパソコンを設置。インターネット回線を使って勤務先と「テレビ電話」のように結んでのやり取りが可能だ。業務の効率化やワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の向上を目指し、国はテレワークの導入を積極的に推奨。現在、同市を始め全国5カ所で実証実験を行っている。

普段は午前6時半ごろ電車に乗り、約70分かけて通勤する塩沢さんだが、テレワークの日は自宅から駅前まで徒歩5分。「生活に余裕ができた」と、妻と共に1歳5カ月の長男の育児を「楽しんでる」という。市の担当者は「通勤時間の短縮で、家族とのふれあ

育児中の女性雇用創出など期待

の時間が増えるのが一番の特徴。育児に忙しい女性の雇用創出のきっかけにもつながる」と、効果に期待を寄せる。塩沢さんは「決裁の判子を押すような作業以外は困ることなく、快適に仕事ができます」と笑顔で話し、今後も引き続き利用する予定だという。

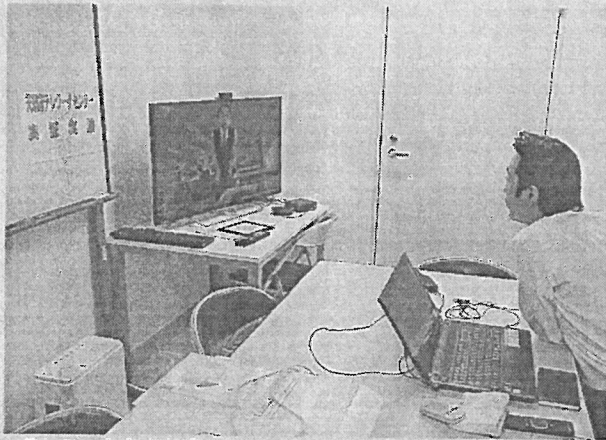
テレワーク 天理市が力

場所にとらわれず働く



テレワーク

造語で「離れた場所で働く」という意味。テレビ会議システムといった情報通信技術（ICT）を使い、場所や時間にしばられない働き方を指す。育児や介護に伴う課題への解決策として注目されている。通勤が難しい障害者が働きやすくなるといった長所もあるが、家庭で仕事をする場合などで長時間労働につながる恐れも指摘される。



テレワーク実証実験に参加している天理市の会社員。大阪府東大阪市のオフィスと映像と音声でやりとりしていた＝天理市

天理市がテレワークに力を入れるのは人口減への懸念だ。10月に公表した天理市人口ビジョンでは「現状が続いた場合、現在の人口約6万7千人は2060年

には約4万5千人にまで減少する」と予測している。自治体の活力を維持するために人口は重要だ。並河健市長は「天理大学があるため10代後半の若者が市内に入ってくるが、卒業すると働く場が無いことや通勤の不便さなどから市外に出てしまう。天理にとどまる若者の比率を上げるだけで、かなり人口減は食い止められる」とみている。

実証実験についての問い合わせは天理市テレワークセンター事務局（株式会社ワイズスタッフ内、074-3・74・2012）

（佐藤圭司）

「人口減 食い止めたい」

情報通信技術を活用し、場所にとらわれないで働く「テレワーク」の導入に、天理市が努めている。国による実証実験が市内に進むほか、市内2カ所に拠点を設けようとする計画。働きやすい環境を整え、人口減を食い止めようという狙いだ。

実験は、国土交通省のテレワーク推進調査の一環。今年度は天理市、札幌市、北海道北見市、群馬県高崎市、熊本市の計5市で進む。天理市は大都市への通勤圏の端に位置する地域モデルという位置づけだ。実験はJR・近鉄天理駅

から徒歩数分のビル3階で進む。9月から来年2月末まで、市ポランティアセンターの一角が市のテレワークセンターに、約10平方メートルの施設可能な部屋（定員4名）にパソコンやプリンター、テレビ会議システムなどが整えられている。天理

市から大阪などへ通勤する社員を雇っている企業が対象だ。実験期間は無料だ。これまで6社が利用した。紙の御売りなどを手がける「株式会社シオサワ」関西支社（大阪府東大阪市）の営業課長、塩澤有紀さん（49）は9月末から10月上旬までに4回利用した。

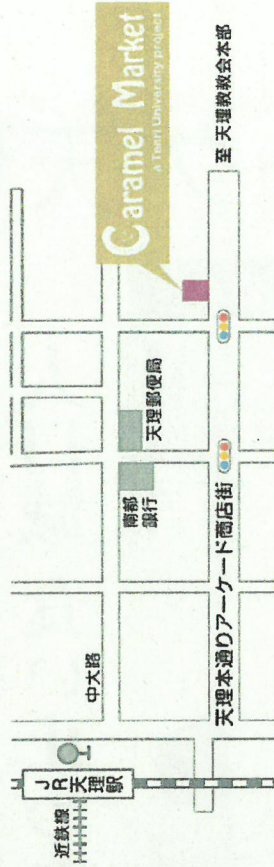
天理市在住で、通常なら出勤のため午前6時半ごろ天理駅発の電車に乗る。「ドア・ツー・ドアで70分ぐらい、かかります」。だが駅前のテレワークセンターまでなら徒歩10分。特に県内で顧客回りをする日は「大阪にいったん出社して奈良に戻って、というロスが無くなるので効率的」。テレワークセンターを利用する日の朝は、昨年7月に生まれた長男と「長く一緒にいられる」と喜ぶ。

また天理市の中心部、本通り商店街にある空き店舗を市が借りて改修し、「天理市産業振興館」にする。2、3階にテレワーク室を6部屋つくる。16年度末までは無料で利用できることなどを盛り込んだ条例案を、今年の12月定例市議会に提出中だ。もう1カ所は山間部で、閉鎖した幼稚園の建物にテレワークができるスペースを設ける。

国の実証実験進む 2カ所に拠点計画

天理大学「てんだり～colors」が、地元企業との連携により
カフェとしてリニューアルオープン

天理大学サテライトカフェ「キャラメルマーケット」



天理大学の情報発信基地「てんだり～colors(カラーズ)」が市内の若い経営者によって生まれ変わりました(^\O^/)地元のカフェ経営者と天理大学がコラボレーションし、『みんなまで天理を楽しもう！』を合言葉に、クレープをメインとしたカフェが12月23日にプレオープンしました。

お店の名前は、「Caramel Market(キャラメルマーケット)」。色々なヒト、色々なコト(モノ)に絡める(からめる)にかけているようで、「色々なヒトや色々なコト(モノ)と関わりを持たず天理の食、天理の情報を発信し、天理を“元気なまち”にしていければ...」。『そのヒトの持ついいところ、そのコト(モノ)の持ついいところ、ヒト×ヒト、コト(モノ)×コト(モノ)、ヒト×コト(モノ)、を掛け合わせ“天理のいいところ”を何倍にもしていきたい。』とは、店主のお二人。

メインメニューであるクレープや、ホットドックには天理産の食材を使用されています。

店内では、天理のおみやげモノや天理大学の情報、天理参考館の情報を発信。今後の『天理を楽しむ』ための仕掛けに期待がふくらみます。

グランドオープンは12月26日(年内はこの日限り)で、通常営業は1月5日からだそうです。場所は天理本通り商店街内、駅前からは2つ目の信号すぐのところ。

Hondoori

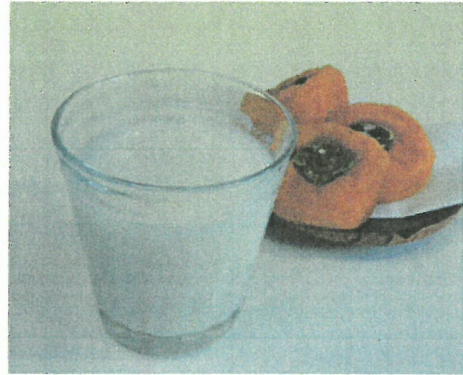
本通り

Shotengai

商店街

Sweet Project

スイーツ プロジェクト



【発起メンバー】

商店街：酒谷さん、山田さん、伊藤さん、稲田さん、片岡さん

【経緯】

平成27年6月

本通り商店街と日本料理のシェフ野永喜三夫氏による、天理の本通りにふさわしいスイーツづくりがスタート。

野永氏は商店街や市内の農家、食品メーカーなどを視察して素材を知り、本部神殿や石上神宮にも参拝し、風土も感じた。

後日、干柿・米粉・イチゴジャム・ほおずきじゃむ・卵等の食材を野永氏に送り、試作品づくりがはじまる。

平成27年8月

米麴をつかった甘酒ドリンク、米麴をつかったカスタード、干し柿のラム酒漬けなど、いくつかの試作品サンプルを試食した。商品化には甘酒ドリンクに決定し、ブラッシュアップをしていくことに。

平成27年11月

てくてくてんりウォーキングフェスタ開催にあわせ、稲田酒造前で試飲会を実施。

「清酒発祥の地のほど近く 心身を癒す天理の地で
奈良県産きぬひかりを使用し 地元酒蔵がつくった糴ドリンク」
プレーンとあんぽ柿ミックスを用意し、上々の人気だった。

【これからの方向性】

地元食材や店の個性でアレンジをきかせることができる糴ドリンク。その魅力を伝え、徐々に取扱う店舗を広げていき、平成29年4月を目標にご当地ドリンクとして定着させる。そのために、平成28年1月26日近辺の130年祭の賑わいのなかで、実験的に販売をしていきたい。



天理駅前広場 管理手法のあり方(案)

	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
		↔ 工事								
ナビ天理	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
		市直営	指定管理3年(公募)	指定管理3年(公募)	指定管理3年(公募)	指定管理3年(公募)	指定管理3年(公募)	指定管理3年(公募)	指定管理3年(公募)	指定管理3年(公募)
広場 (南北とも)	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
		施設管理	指定管理	指定管理	指定管理	指定管理	指定管理	指定管理	指定管理	指定管理
		賑わ いづ くり	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
		市民と行政の協働	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
		委託	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
駐車場	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
		指定管理 広場の業務範囲	指定管理7年(天理市開発公社)	指定管理7年(天理市開発公社)	指定管理7年(天理市開発公社)	指定管理7年(天理市開発公社)	指定管理7年(天理市開発公社)	指定管理7年(天理市開発公社)	指定管理7年(天理市開発公社)	指定管理7年(天理市開発公社)
地下通路	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
		指定管理	指定管理3年(公募)	指定管理3年(公募)	指定管理3年(公募)	指定管理3年(公募)	指定管理3年(公募)	指定管理3年(公募)	指定管理3年(公募)	指定管理3年(公募)
地下駐輪場	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
		指定管理	指定管理3年(公募)	指定管理3年(公募)	指定管理3年(公募)	指定管理3年(公募)	指定管理3年(公募)	指定管理3年(公募)	指定管理3年(公募)	指定管理3年(公募)
		検討中	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔

作業部会で検討中の賑わいづくり 賑わいづくり作業部会の今後のあり方

グラドオープン以降のありたい姿

天理市内で活動されている音楽やダンス、スポーツ、子育て、健康づくりなど、様々な活動をされている市民、ビジネス関係者が使いたくなる広場。そこに市内、市外の人々が集まり賑わいが生まれる。

H28年度中にやるべきこと

グラドオープンまでに、市民への周知や活動されている方とのネットワークづくり、広場の利用方法や良い雰囲気を広場に作る運営手法など必要な環境を整える

■仮囲いアート

工事期間中の仮囲いを活用した、観光写真や小学生アートの掲載やライブアートの開催

■街歩きイベント

夏～秋に予定される「プレキャスト」工事の見学と、駅周辺地区の飲食店や見所を巡る街歩き

■オープニングイベント

H29年4月に実施。文化や産業を発信するイベントを、広場の活用方法紹介をかねて開催

■広場ホームページ・パンフレット・映像製作

ホームページ

H28年春にホームページ開設、完成予想図やコンセプト、イベント、利用方法等を掲載

H29年春に本格稼働 上記に加え完成写真や地区イベント、市内情報を厳選して紹介。
パンフレット・映像

H29年春に配布する施設や利用方法等を紹介するパンフレットや遊具利用方法等の映像を製作

賑わいづくり作業部会の今後のあり方

H28年4月～

天理駅前広場の賑わいづくりの企画、実施、調整、広報を主導する。

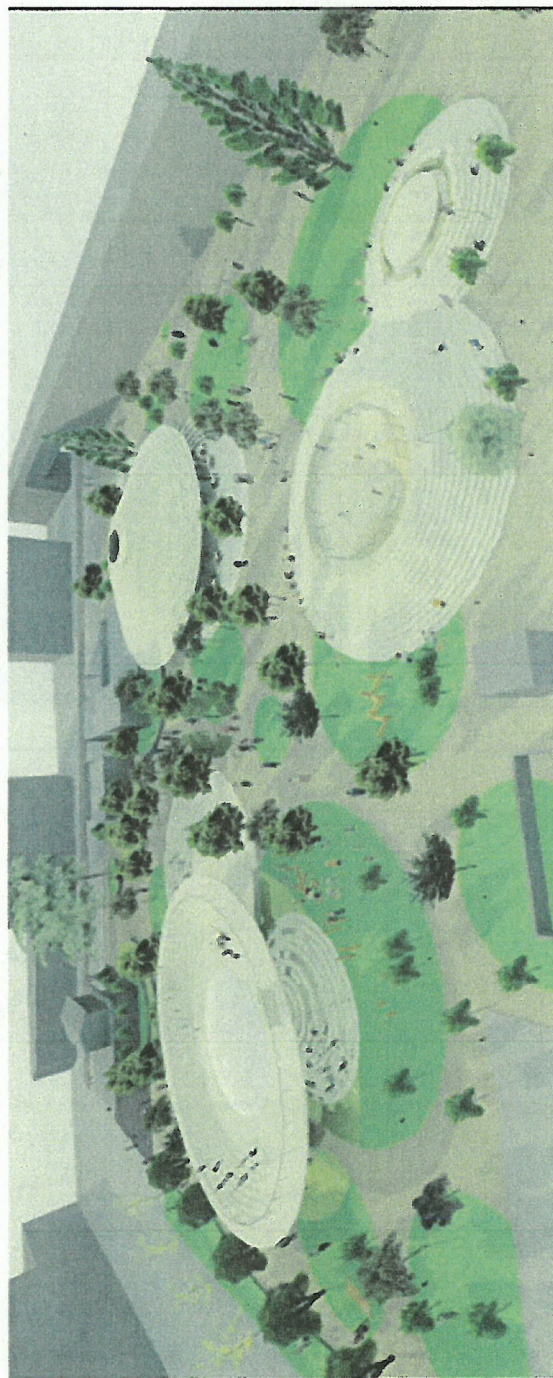
H28年度は、上記事業を市から受託して実施する。

商店街の産業振興館を
活動拠点として利用



天理駅前広場 作品名案

Co-fu-fun



Co = 共、協

fufun = フフン♪

fun = 愉、楽、喜

広場デザイナー佐藤オオキ氏が
作品名として提案。

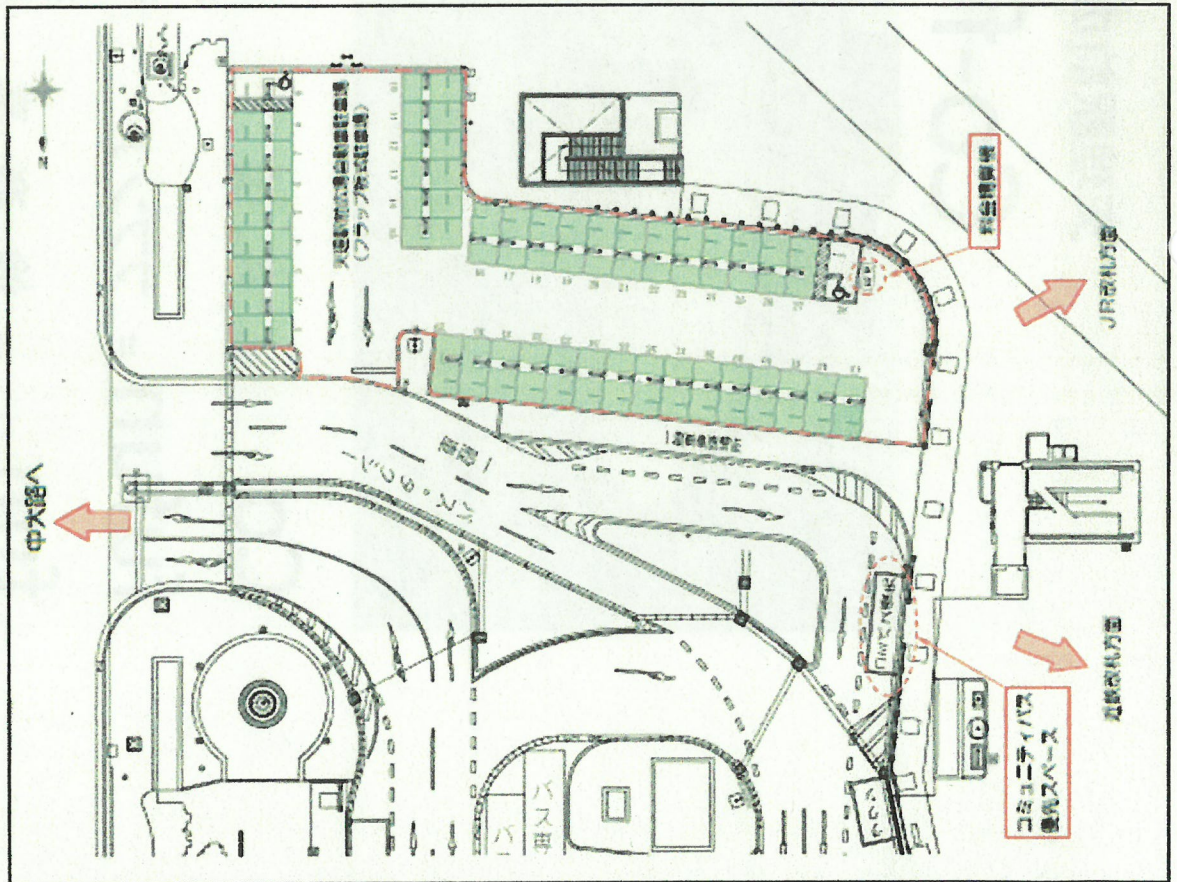
音は市内の魅力の一つである「古墳」、
表記と意味は英語で、一緒に喜ぶ、協力
してつくりだす、自慢の広場

条例上の施設名：天理駅前広場

広場内看板等での作品名の表記：天理駅前広場 Co-fu-fun

将来的に市民のなかで共有される愛称が発生してきた場合は、採用していくことを検討

平面コインパーキングの運用開始について



営業開始: H28.1.12~

駐車台数: 43台

料金体系: 30分無料、以降1時間ごとに200円

※以前同様

☆H28.4月~無料時間拡大を検討中

運営主体: 天理市開発公社

※立体駐車場や300番地との一体運営



天理駅前広場空間整備事業 全体スケジュール

H28.1.20 修正版

